

北いわて最前線



震災から10年
未来へつなぐ



洋野種市IC～階上IC間の開通式典
(令和2年12月12日)



田野畑北IC～普代間の開通式典
(令和2年12月19日)

田野畑北IC～普代 一般開放

三陸沿岸道路

東日本大震災津波から10年が経つ今年、国土交通省が復興道路として整備を進めている三陸沿岸道路が全線開通を迎えます。仙台～八戸間をつなぐ全長359kmのうち令和2年12月には、洋野種市IC～階上IC(洋野階上道路内)と普代IC～田野畑北IC間が開通しました。

この道路の開通によって、災害時にも寸断しない強靱な道路ができます。急カーブ・急勾配や津波浸水区域を回避した迅速な走行も可能になり、移動時間の短縮と、信頼性の高い道路ネットワークの形成が期待されます。安全性や利便性の向上により、救急・医療での利用や物流効率化が見込まれます。そのほか、三陸沿岸道路は、広域観光など多種多様な地域振興に役立てることができる可能性を秘めています。

今号は、発生から10年が経過する東日本大震災津波について特集します。



contents

P.2 特集1

あの日を
忘れない
～未来へつなぐ
記憶と教訓～



P.5 特集2

世界文化遺産登録の
期待が高まる
北海道・北東北の
縄文遺跡群



P.6 県北広域トピックス2021

復興に取り組みながら、
お互いに幸福を守り育てる
希望郷いわて



P.8 特集3

IGR & 三陸鉄道の
おすすめポイント
紹介
[アンケート&プレゼント]



～ 未来へつなぐ記憶と教訓 ～



マグニチュード9.0という世界最大級の地震と巨大津波を引き起こした東日本大震災津波から丸10年が経過しました。管内の復興事業は着実に進んできましたが、被災された方の心のケアや事業者への支援など引き続き取り組むべき課題があります。巨大津波などは、いずれまたやってきます。震災の記憶と教訓を未来へ伝承し、「そなえる」ことが大切です。

東日本大震災津波の概況 (岩手県災害対策本部調べ)

- ▶ **発生日時** 平成23年3月11日(金)14時46分頃
- ▶ **震央地** 三陸沖・牡鹿半島の東南東約130km付近(北緯38°06.2' / 東経142°51.6')
- ▶ **震源の深さ・規模** 24km・マグニチュード9.0(モーメントマグニチュード)
- ▶ **本県の最大震度** 震度6弱 大船渡市、釜石市、滝沢村、矢巾町、花巻市、一関市、奥州市、藤沢町(当時の市町村名)
- ▶ **津波の最大波** [久慈港]8.6m(推計値) [宮古]11日15時26分 8.5m以上 [釜石]11日15時21分 4.2m以上 [大船渡]11日15時18分 8.0m以上

全国と本県全体の被害状況 死者数・行方不明者数・家屋倒壊数(平成23年6月24日現在)

全国

死者数… 19,792人
行方不明者数… 2,559人
家屋倒壊数… 121,996棟
被害額… 169,000億円

県全体

死者数… 5,144人
行方不明者数… 1,111人
家屋倒壊数… 26,079棟
被害額… 42,760億円

内陸部

死者数… 34人
行方不明者数… 5人
家屋倒壊数… 1,846棟
被害額… 7,540億円

※死者数は、直接死(岩手県警調べ)及び関連死(岩手県復興局調べ)。※家屋倒壊数は、全壊及び半壊数。
※痕跡高は、堤防付近での測定値(「岩手県沿岸における海岸堤防高さの設定について」による)。
※全国数値の出典 死者数、行方不明者数、家屋倒壊数:「東日本大震災からの復興状況と取組」復興庁 2020年9月、被害額:R2防災白書

管内の被害状況と復興の主な取組 死者数・行方不明者数・家屋倒壊数(令和3年1月31日)

久慈市内

被害状況

痕跡高 久慈湾13.7m

死者数… 3人
行方不明者数… 2人
家屋倒壊数… 278棟



取組内容

津波による人的被害のほか、物流拠点として重要港湾に指定されている久慈港をはじめとした港湾施設や工場、家屋などに大きな被害が発生しました。そのため、市による漁業集落の高台移転、災害時の拠点機能を備える新たな総合防災公園(夏井地区)、津波で流出した小袖海女センターや、もぐらんぴあなどの観光施設の再整備が行われてきたほか、現在、国による総延長3,800m、湾口防波堤の再整備が令和10年度完成を目指して行われています。

また、県では、市内を流れる二級河川久慈川・夏井川の河口部分の防潮堤の嵩上げや、港湾を取り囲む防潮堤の復旧・復興と陸間の自動閉鎖化、漁港の再建などを進めてきました。



災害時に、宿营地や荷さばき場となる総合防災公園

野田村内

被害状況

痕跡高 野田湾21.4m

死者数… 39人
家屋倒壊数… 479棟



(出典元 野田村)

取組内容

大津波が村中心部を直撃し、村内住家の約3分の1が流出、管内で最も多い犠牲者を出すなど甚大な被害が生じました。被災後は、災害に強いまちづくりを目指し、村内3か所に高台団地が整備され、浸水地域の集団移転が進められるとともに、災害公営住宅が村営計74戸、県営計13戸が整備されました。津波で大きな被害を受けた村中心部の城内地区では土地区画整理が進められ、防災拠点施設が完成しました。

また、村は浸水地域に津波防災緑地(通称十府ヶ浦公園)を整備しています。緑地内の盛土は、防潮堤、国道・三陸鉄道の盛土とともに、3重の堤防機能を果たすよう設計されました。県では、このうち海岸部の防潮堤2,640mの復旧・復興と約4mの嵩上げを行ってきました。



グランドゴルフ場や多目的イベント広場などが整備された津波防災緑地

あの日を忘れない

洋野町内

被害状況

痕跡高 洋野・久慈北海岸12.0m

家屋倒壊数… 26棟



取組内容

人的被害は発生しなかったものの、家屋や漁業施設、漁港などに被害が発生しました。そのため、最も被害の大きかった八木地区について、町による嵩上げが行われたほか、水産会館の整備など一日も早い産業の再生に向けた取組が進められてきました。



ひろの水産会館「ウニーク」の整備（津波で被災した旧物産館を水産会館として再建）（町）

普代村内

被害状況

痕跡高 普代海岸18.4m

行方不明者数… 1人



取組内容

住宅被害は発生しなかったものの、村外で行方不明になった住民の方がいます。村内6つの漁港では漁船や漁業施設が流出しましたが、平成25年度までに漁業施設の、平成29年度までに村内の全復興事業が完成しています。



普代浜園地「きらうみ」の再整備及び海産物直売施設の整備（村）

本県は、明治29年の明治三陸地震津波、昭和8年の昭和三陸地震津波、同35年のチリ地震津波など幾度となく津波の被害を受けてきました。巨大津波などの大災害は、いずれまたやってきます。今回の大震災津波を含め、震災の記憶と教訓を未来へ伝えていくことが大切です。

東日本大震災津波では、それまで想定していた範囲を超えた津波が到達しました。自分や大切な人の命が守られるよう、家族や地域で避難方法を決めたり、命を守る方法を話し合ったりして、日頃から「そなえること」が大切です。

次のページでは、震災の記憶と教訓を未来に伝える管内の震災伝承施設を紹介します。

振興局のその他の取組

久慈地区被災者相談支援センター（令和3年3月で終了）による専門家派遣や相談対応を行ってきたほか、内陸部の方にも被災地の現状を知っていただくため、平成26年度から令和元年度まで「復興の現場見学会」を開催してきました。震災から10年を迎える今年度は、Twitter「北いわて復興情報ch」で、工事やイベントなどの関連情報を発信しています。



復興の現場見学会
（野田村震災ガイドによる解説）

管内では、早期の復旧・復興に向けた取組のほか、未来へつなぐための取組が行われています。

復興トピックス



フォトロゲイニングの開催

県は普代村と共催で、指定されたチェックポイントを回り得点を集めるスポーツ「フォトロゲイニング」を令和2年11月8日に普代村内で開催しました。県内外から参加した180名は、黒埼灯台や普代水門など村内のチェックポイントを回りながら、大震災津波の被害状況などを確認しました。



十府ヶ浦公園にシバザクラ3,000本植栽

三陸鉄道(株)では、花が広がる沿線観光スポットの創出のため、令和2年10月18日に野田村十府ヶ浦公園でシバザクラ植栽イベントを開催しました。



久慈湾でのギンザケ養殖事業化試験

久慈市漁協と福岡市の(株)ニチモウマリカルチャーは、2028年完成予定の湾口防波堤により生まれる静穏域の活用を見据え、2019年から3か年計画で、生食用として国内需要が高いギンザケの養殖試験を実施中です。



普代水門を絵本として出版

普代村では、津波から村を守った普代水門の教訓を、絵本『普代村を守った奇跡の水門』として出版しました。村では、震災学習での活用や県内の小中学校への配架をすることとしています。



米田水門を震災遺構として保存

大震災津波で大きな被害を受けた野田村の米田水門について、管理者の県が震災遺構として保存する工事を行い、震災直後の状況を残しながら使用しています。

北いわての

震災伝承施設を巡り、学ぼう

震災伝承施設とは？

- 東日本大震災の実情と教訓を後世に伝承する施設で、平成30年度に国が登録制度を創設しました。以下のいずれかの項目を含む施設が該当します。
- 1 災害の教訓が理解できるもの
 - 2 災害時の防災に貢献できるもの
 - 3 災害の恐怖や自然の畏怖を理解できるもの
 - 4 災害における歴史的・学術的価値があるもの
 - 5 その他（災害の実情や教訓の伝承と認められるもの）

東北お遍路とは？

東日本大震災で犠牲になられた方々への慰霊と、千年先まで語り継ぎたい震災にまつわる物語の存在する所を選定した巡礼地のことです。福島県から青森県までの太平洋沿岸に設けられていて、（一社）東北お遍路プロジェクトが委員会を開催し、選定しています。



県北地域の震災伝承施設と東北お遍路の巡礼地を紹介します。大震災の記憶を風化させないよう、実際に訪れ見て感じ、将来の世代へ伝えていきましょう。

洋野町



洋野 津波石碑

種市・川尻地区

昭和8年の三陸大地震で発生した津波の注意喚起の文言が刻まれています。碑の前に築かれた高さ12mの防潮堤と水門によって、東日本大震災の高さ約11mの津波から町は守られ、震災による犠牲者は出ませんでした。



津波慰霊碑

八木地区

明治と昭和8年に発生した大津波の慰霊碑です。東日本大震災でも津波の被害が最も大きかった地区ですが、毎年、昭和の津波が起きた3月3日に慰霊祭と防災訓練が行われていたお陰で、犠牲者は出ませんでした。

久慈市



地下水族科学館 もぐらんぴあ

侍浜地区

東日本大震災で全壊しましたが、平成28年に元の場所で開催しました。管理棟の3階を防災学習展示施設として整備し、震災当時の状況や復旧・復興の歩みなどを映像やパネル、タブレットなどで紹介しています。



ケルン・鎮魂の鐘と光

長内地区

東日本大震災で久慈市を襲った津波高14.5mを参考に設計された、地域の復興の標となるモニュメントです。市内で発生した瓦礫を土台に、市民が持ち寄った石で組み上げられていて、脇には鎮魂と希望の鐘があります。

野田村



大鳥居と楓の木

愛宕地区

愛宕神社の大鳥居は13.4mの高さがあります。震災時には瓦礫や壊れた家屋がひっかかり津波の力を弱めました。参道広場には村内を見守る楓の木があり、明治三陸大津波の時に木にかまっていた人がいたそうです。



米田歩道橋の一部

米田地区

防潮堤を兼ねた一般国道45号の水門部の米田川を渡る歩道橋の一部です。東日本大震災の津波により破壊・流失しました。歩道橋下部は引波によって海側へ曲がっており、津波の脅威を知ることができます。

普代村

太田名部地区



太田名部防潮堤



普代水門



故和村幸得 元普代村長顕彰碑

財源や土地活用に反対する村民を説得して普代水門や太田名部防潮堤を完成させた故和村幸得元村長の顕彰碑です。明治・昭和の二度の大津波の教訓を忘れず、次の災害に備えておくことというメッセージが伝えられています。

太田名部防潮堤と同様に15.5mの高さに建設され、東日本大震災では被害を最小限に食い止めて「奇跡の水門」と呼ばれました。ただし、到達した津波は水門の高さを超えており、「素早く高台に避難することが重要である」という教訓も伝えています。

明治29年の三陸大津波で記録された津波高15.2mにこだわって、15.5mの高さに建設されました。東日本大震災では、津波による浸水を最小限に食い止め、村民の死者0人、行方不明者を1人に抑えました。



特集2

世界文化遺産登録の期待が高まる 「北海道・北東北の縄文遺跡群」

世界文化遺産登録を目指す、「北海道・北東北の縄文遺跡群」。今年の夏のユネスコ世界遺産委員会で登録の可否が審査されます。その価値を改めて認識し、皆で登録への機運を盛り上げていきましょう！

高度で成熟した縄文文化を後世へ

「北海道・北東北の縄文遺跡群」とは、一戸町の「御所野遺跡」を含む、北海道・青森県・岩手県・秋田県にある17の遺跡群のことを指します。縄文時代草創期から晩期まで(紀元前13000年～紀元前300年)の各時期の、人々の生活や祭祀などの実態を今に伝える遺跡や記念物などで構成されています。

約1万年にわたり営まれた縄文文化は、狩猟や採集、漁労といった自然の恵みとともに人々が定住を成し遂げた世界的に見ても稀有な文化であり、これらの遺跡群は、農耕以前の北東アジアの人々の生き方を紐解く意味でも貴重なものといわれています。

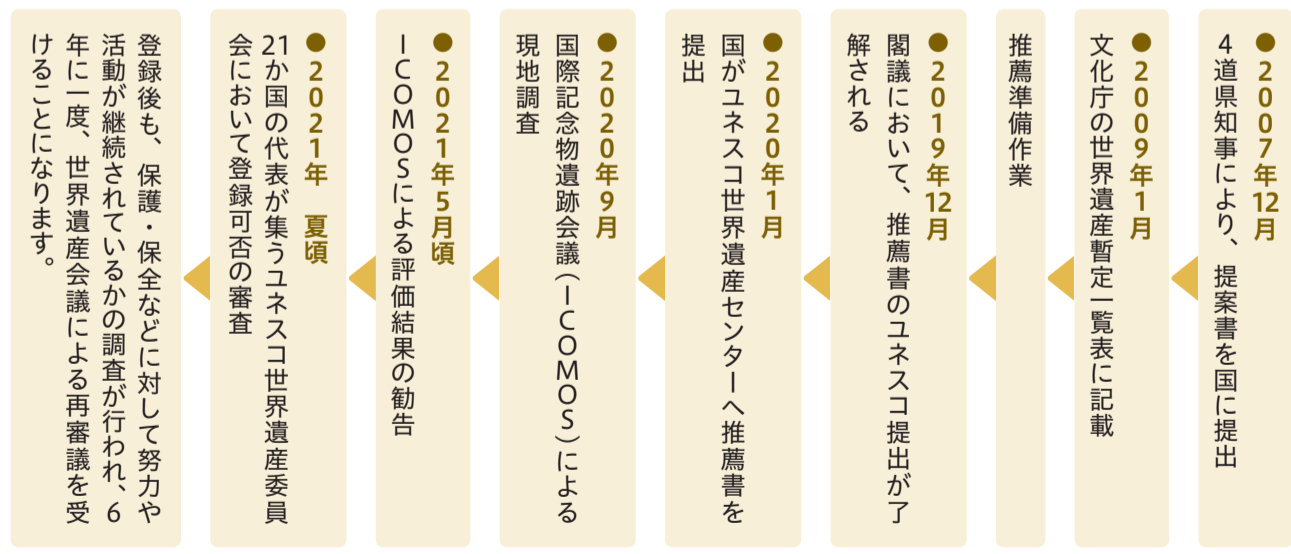
800年にわたり人々が定住した「御所野遺跡」

遺跡群を構成する遺跡の一つである一戸町の「御所野遺跡」は、縄文時代中期後半(5000年前～4200年前)の拠点集落跡です。建物跡や盛土遺構、配石遺構などが分布しており、当時の人々が周辺の自然環境と共存しながら、800年という長きにわたり定住していた証拠を示す貴重な遺跡です。

遺跡は現在「御所野縄文公園」として整備されており、竪穴建物や配石遺構・ストーンサークルが復元されているほか、公園内にある「御所野縄文博物館」では出土した土器や土偶、石器などを見ることができます。



世界文化遺産登録までの歩みと、今後のスケジュール



世界遺産とは...

過去から現在へと引き継がれ、未来へと伝えていかなければならない人類共通の宝物のことです。文化遺産、自然遺産、複合遺産の3種類があり、「北海道・北東北の縄文遺跡群」は文化遺産登録を目指しています。

▶「北海道・北東北の縄文遺跡群」について、詳しく知るにはこちら！

「北海道・北東北の縄文遺跡群」
公式ホームページ
<https://jomon-japan.jp/>



「御所野縄文公園」ホームページ
<https://goshono-iseki.com/>



岩手県世界文化遺産関連ポータルサイト
<http://www5.pref.iwate.jp/~hp0252/>





ホームページでも情報を発信中



おでかけi-サポ
ホームページ

Twitterアカウント (@isapo_iwate) を開設しました。フォローやシェアをお願いします。

問合せ先

【二戸地域】
i-サポ盛岡 TEL.019-601-9955
【久慈地域】
i-サポ宮古 TEL.0193-65-7222
(いずれも平日10時～19時、
土・日曜9時～18時)
<https://www.ikiiki-iwate.com/>

話しかけ、会話が楽しく質問の仕方などを、実践を交えて学びました。参加者からは、「聴く力の重要性を実感した」「知識だけでなく、実践することが大切だと分かった」などの感想が寄せられました。

「いきいき岩手」結婚サポートセンター「i-サポ」は、岩手県と県内市町村、民間支援団体が連携し、(公財)いきいき岩手支援財団が運営する公的な結婚相談所です。岩手での結婚を希望する独身男女に出会いの場を提供するほか、県内の結婚支援団体のイベント情報なども紹介しています。

盛岡市・宮古市・奥州市にセンターがあるほか、月2回、久慈中央市民センターと二戸市広域観光物産センターカシオペアメッセ・なやーとを会場に、出張サービス「おでかけi-サポ」も開設しています(詳しくはホームページを参照)。

また、昨年10月には、県北広域振興局の主催で「大人のコミュニケーションセミナー」を開催しました。男女に分かれて、恋愛はもちろん仕事や日常生活にも生かせるマナー、相手から好かれる話し方、会話が楽しく質問の仕方などを、実践を交えて学びました。参加者からは、「聴く力の重要性を実感した」「知識だけでなく、実践することが大切だと分かった」などの感想が寄せられました。

結婚を望む方々を岩手県が応援！
久慈・二戸では出張サービスも



復興に取り組みながら、お互いに 幸福を守り育てる希望郷いわて

トヨタ生産方式を学び
農林水産事業の経営効率化を目指す



真剣に講義を受ける参加者たち



実際のグループワークで経営効率化を学ぶ

問合せ先

東北広域振興局農政部
二戸農林振興センター
TEL.0195-23-9203

応えを感じているようです。参加者は今後、トヨタ生産方式を採用入れ、経営改善に取り組んでいる二戸地域の事業者訪問も予定しています。

岩手県では多くの企業が採り入れ、経営改善の参考にしていくトヨタ自動車の生産管理手法「トヨタ生産方式」のノウハウを二次産業にも導入し、経営効率化を担う人材を育成することを目的に、久慈・二戸地域の農林水産事業者を対象とした「カイゼン塾」を開催しました。

大規模野菜農家や水稲農家、酪農家、林業に携わる事業者など11名が参加し、トヨタ生産方式の成り立ちや基本的な考え方、「情報の見える化」や「2S(整理整頓)」の重要性を学びました。講義の後には班毎に、自身の経営に活かせる2Sは何かを話し合うグループワークを実施しました。「自身の経営に何が足りないのか、今後何が必要なのかに気付かされた」と、参加者の皆さんも大きな手応えを感じているようです。参加者は今後、トヨタ生産方式を採用入れ、経営改善に取り組んでいる二戸地域の事業者訪問も予定しています。



12月の「カイゼン塾」の様子



鳥海小学校付近(バイパス区間を撮影)

問合せ先

二戸土木センター道路整備課
TEL.0195-23-9209

また、県道一戸浄法寺線「中里地区」では、鳥海トンネルから鳥海小学校までの1240mの一車線隘路について、現道の拡幅や一部区間をバイパスする工事を行いました。2車線に拡幅した道路は車両のすれ違いも容易となり、交通安全の向上が図られたほか、一戸町の中心部へつながる道路としてのアクセス機能も向上しました。

岩手県が整備を進めてきた、東北地域の2つの道路の整備が完了しました。

洋野町の県道明戸八木線「小田の沢工区」では、明戸八木線535mと八木港線185mの計720mを新設しました。新道は国道45号に直接つながり、八木地区防災センターや種市病院、八木港へのアクセスが便利になります。生活道路としての利便性はもちろん、災害対応や物流の効率化にも期待が寄せられています。



国道45号との交差点(八木港線から大野方向を撮影)

問合せ先

東北広域振興局土木部道路整備課
TEL.0194-53-4990

管内2つの道路の整備が完了！
アクセス機能が向上

県北地域では地域の特性を生かしながら、農林水産業や企業の支援、まちづくりの活動など、魅力あるふるさとを創造していくため、いわて県民計画(2019～2028)地域振興プランに基づく取組を進めています。





和気あいあいとした雰囲気の中カーリングを楽しむ参加者



基本の姿勢を実践する参加者

問合せ先

県北広域振興局二戸地域振興センター
TEL.0195-23-9205

2021年 3月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

■がスクール実施日。20日には「ミライリンク・ビギナーズ・カップ」を開催する予定

対象は小学校4年生以上で、基本的なルールや姿勢、ストーンの投げ方から指導してもらえるため、初めてカーリングに挑戦する人も安心です。1回の参加で、ミニゲームまで楽しめるようになります。昨年12月のスクールには、小中高生から40代までの幅広い世代の皆さんが参加し、親子で楽しむ姿も見られました。

このスクールは、地域の皆さんがカーリングを知り、始めるきっかけにもなっています。未来のオリンピックピック選手がここから誕生するかもしれません。スクールは3月で終了ですが、来シーズンも実施予定です。

カーリングは、年齢性別問わず誰もが楽しめるスポーツです。県北青少年の家では、二戸地域でのカーリングの普及と競技人口の拡大を目的に、3月末まで「ジュニアカーリングスクール」を開催しています。主催・指導しているのは、管内のカーリング愛好家団体の「ミライリンク」です。二戸市出身でソチオリンピックカーリング女子日本代表の苦米地美智子選手も、特別講師として指導に当たる予定です。

初めての人も安心
初心者向けカーリングスクール開催



活発な質疑応答を交わした参加者



自分の将来を考える高校生たち

問合せ先

県北広域振興局経営企画部
産業振興室
TEL.0194-66-9670(直通)、
0194-53-4981

講師を務めたのは、久慈市内で事業を営むNANAMARUNICOFFEE(ナナマルニコーヒー)代表の嵯峨恒宏さん(1・2回目)と、シューズセンターたかぎ店長の高木康弘さん(2回目)です。会場がナナマルニコーヒーだったこともあり、ドリンク片手にリラックスした雰囲気の中、トークセッションを行いました。

Uターンした経緯や、Uターンして改めて気づいた故郷の魅力などを先輩から聴いた高校生たちは、地元の良さ、Uターンすることの良さを知ることができたと話しました。保護者からも「親ではない大人の話をお聴く機会は子ども達にとって貴重な経験になる」「子どもたちにエールをもらった」と好評でした。この事業は、来年度も継続し行う予定です。

県北地域では、進学・就職等により8割を超える若者が地域を離れています。そこで、Uターン経験者の体験談を聴く機会を通じて若者の地元就業を促進しようと、12月と1月の2回、Uターン経験者と久慈管内の高校生、保護者の交流イベント「あなたの知らないUターンの世界」を開催しました。



講師を務めた高木さん(左)と嵯峨さん(右)

高校生や保護者とUターン経験者との
トークセッションで若者の地元就業を促進



完成したスタンドグラスを手に笑顔



細かい作業にも熱心に取り組む

問合せ先

県北広域振興局経営企画部文化スポーツ振興
TEL.0194-53-4981

久慈地域の児童が多分野の芸術や文化に触れ、体験する「北いわて・子どもアートタッチプロジェクト「久慈」」を、12月27日に久慈市中央市民センターで開催しました。久慈地域4市町村の小学3年生から小学6年生までの児童51名が参加し、地元で活動している講師の指導のもと、琴・ステンドグラス・いけばな・造形アート・メタルアートの5分野から2つを選び体験しました。

今回で5回目を迎えるこのイベントは、開催を楽しみにしている児童が多く、リピーターやきょうだいで参加する姿も見られました。皆、楽しく、かつ真剣に取り組む、「また参加したい」との声も聞かれました。

こうしたきっかけづくりを通して、児童の文化芸術への理解・定着を図り、県北地域の将来的な文化芸術活動の底上げにつなげていきます。



集中して指導を受ける子どもたち

児童の文化芸術体験を
地域の活性化につなげよう



シルバーの車体に、銀河の星に照らされた無限に広がる岩手の夜空をイメージした「スターライトブルー」と、星の輝きをイメージした「スターライトイエロー」のラインが特徴的です。

★ ^{こつなぎ}小繫駅～^{こずや}小鳥谷駅間

IGRは山あいを走る路線であり、冬季は雪をまとった木々が織りなす銀世界の中を走行します。沿線からは細かい雪を巻き上げながら力強く走る列車を見ることができます。



小繫駅～小鳥谷駅間



一戸駅～二戸駅間

★ 一戸駅～二戸駅間

トンネルを抜けると、二戸市を代表する景勝地「馬仙峡」を望むことができます。春は新緑、秋は紅葉と、季節に合わせて変化する自然美をたっぷり味わうことができます。

ウシレチ文具シリーズ

クリアファイル 全2種

各300円(税込)

運転士(ウシ)と車掌(レチ)をモチーフにしたオリジナルグッズです。「ウシレチ」とは、鉄道電報で使われていた略号です。盛岡駅・厨川駅・滝沢駅・好摩駅・いわて沼宮内駅・一戸駅・二戸駅・びすとろ銀河(青山駅青山南口内レストラン)、通信販売サイトで購入可能です。



通信販売サイト
「ぎんきらショップ」



コロナ禍でも
元気に運行中!

IGR & 三陸鉄道のおすすめポイント紹介

IGRいわて銀河鉄道と三陸鉄道は、どちらも県北地域に住む人にとって欠かせない公共交通機関です。このご時世だからこそ、地元の路線を応援したい!ぜひとも知ってほしいおすすめスポットやグッズを紹介します。

さんてつトートバッグ

2,400円(税込)

とても軽量で丈夫です。折り畳むとコンパクトですが、広げると持ち手が肩にかけられる長さに。たくさん入るため買い物で活躍します。両面に三鉄車両とさんてつくんがプリントされていて、宮古駅に隣接する「さんてつや」で購入できます。



ほりない
白井海岸駅と堀内駅の間の大沢橋梁
堀内駅と野田玉川駅の間の安家川橋梁

三陸鉄道は岩手県沿岸部に南北に走る鉄道です。県北エリアでは、白井海岸駅と堀内駅の間にある大沢橋梁と、堀内駅と野田玉川駅の間にある安家川橋梁から望む水平線がおすすめスポットです。これらの橋梁上からは太平洋が一望でき、日中であれば、停止または徐行した列車の車窓からじっくりと景色を楽しむことができます。



大沢橋梁



安家川橋梁

青・赤・白のシンボルカラーは、「三陸の海」「鉄道に対する情熱」「誠実」を表しています。車両番号の「36」は、「さんりく」をもじってつけられています。



三陸鉄道

感染症対策
について

IGR&三陸鉄道では、今後もお客さまが少しでも安心してご利用いただけるように各種感染症対策を行っています。安心してご利用ください。

感染症
対策例

- 社員のマスク着用、手洗い、消毒
- 列車内の換気
- 列車内の手すりなど手に触れる部分の除菌

- 接客箇所に飛沫防止のシートやアクリル板の設置
- すべての列車内において抗菌加工の実施
- 熱感知カメラを設置、オゾン発生装置を設置

読者プレゼント

アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選で10名様にプレゼント!!

IGR&三陸鉄道 オリジナルグッズセット

【IGR】・星と電車のミニトート
・ぼち袋



【三陸鉄道】・三鉄チキンカレー
・三鉄ビーフカレー



「北いわて最前線」を最後までお読みいただき、ありがとうございます。読者の皆様の「声」をお聞かせください。

- 今回の記事に興味を持ったものは何ですか? (番号で回答、複数回答可)
 - ① 特集1 あの日の忘れない～未来へつなぐ 記憶と教訓～
 - ② 特集2 世界文化遺産登録の期待が高まる 北海道・北東北の縄文遺跡群
 - ③ 県北広域トピックス2021
 - ④ IGR&三陸鉄道のおすすめポイント紹介
- 本紙への御意見・御要望や、今後掲載して欲しい内容がありましたら、御自由にお書きください。
- 県北広域振興局に対する御意見・御要望がありましたら、御自由にお書きください。

※ 回答は、右の二次元バーコードを読み込んで応募フォームから応募ください。なお、はがき・FAXでも応募いただけますので、住所・氏名・年齢・性別・電話番号をお書きの上、お送りください。



スマートフォン用

岩手県 県北広域振興局全世帯配布広報誌 (令和3年2月発行)

編集・発行

県北広域振興局経営企画部
〒028-8042 岩手県久慈市八日町1-1 TEL: 0194-53-4981(代) FAX: 0194-53-1720 E-mail: BK0001@pref.iwate.jp

